

顯秘發向錄



新刊林氏白集序

疎野之於世也其集亦存
新刊林氏白集序
世遠其集亦存
題林氏白集序
乙巳年



新題林藪句集目錄

○春之部

| | | | | |
|-----------------|-----|-----------------|-------------------|------------------|
| 立春 | 正月 | 元日 _二 | 初空 | 初日 |
| 日の初 | 初雞 | 初鳥 | 初豆 | 初曆 _三 |
| 若水 | 紫且 | 三朝 | 今朝の春 _四 | 今日の春 |
| 花の春 | 神の春 | 初春 | 君の春 | 明の春 _五 |
| 市廛 | 福壽井 | 門松 | 大板 | 初霞 _六 |
| 藪園 | 屠菴 | 雜煮 | 古箸 | 喰摘 |
| 蓬菜 _七 | 年玉 | 若飯 | 寶舟 | 寶引 |
| 魚鯛 | 年男 | 着七初 | 弓始 _八 | 駢初 |
| 破魔弓 | 佩初 | 書初 | 猿袋 | 萬菜 _九 |
| 春駒 | 水鏡 | 糴杖 | 七草 | 葦 _十 |

| | | | | |
|----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|---------------------|
| 若菜 | 松籬子 | 手鞠 | 初寅 <small>土</small> | 春菜 |
| 十日魚 <small>土</small> | 店節 | 獨良 | 左義長 | 御降 <small>土</small> |
| 子の日 | 小松引 | 睦月 | 遣羽子 | 嘗 <small>土</small> |
| 白魚 <small>土</small> | 蛤 <small>土</small> | 縣石 | 藪入 | 野老 |
| 梅 <small>土</small> | 柳 <small>土</small> | 榎 <small>土</small> | 若草 <small>干</small> | 下萌 |
| 露 <small>土</small> | 芥 <small>土</small> | 海苔 | 序忌 | 霞 <small>土</small> |
| 殘霞 | 餘寒 <small>土</small> | 残雪 | 春雪 | 東風 |
| 春 <small>土</small> | 春風 | 佐保娘 <small>土</small> | 海雲 | 春草 |
| 〇二月 <small>共</small> | 衣 <small>土</small> | 二日灸 | 初午 | 新能 <small>土</small> |
| 温盤 | 西行忌 | 彼眉 | 畑 <small>土</small> | 莖 <small>土</small> |
| 木の芽 | 稚新 <small>土</small> | 種芽 | 紅毒 | 蚤毒 |
| 芦芽 | 芦角 | 連翹 | 獨活 <small>土</small> | 土筆 |

春目ノ
一

| | | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 萱 | 靴草 | 菜 <small>土</small> | 五百石 | 薊 |
| 接木 <small>土</small> | 排 | 彼岸梅 | 初梅 | 糸梅 <small>土</small> |
| 山 <small>土</small> | 一重梅 | 草麦 | 五加木 | 蕨 |
| 猫 <small>土</small> | 雉子 <small>土</small> | 雲雀 <small>土</small> | 燕 | 初蝶 |
| 蝶 <small>土</small> | 初蝶 | 蛙 <small>土</small> | 田 <small>土</small> | 蛸 |
| 幌 | 若鮎 | う <small>土</small> | 春鷹 | 駒鳥 |
| 夢 | 鳥 <small>土</small> | 麦 <small>土</small> | 為角 | 春鴈 |
| 泊 <small>土</small> | 冴 <small>土</small> | 臈夜 | 臈月 <small>土</small> | 雪解 |
| 凍解 | 几 <small>土</small> | 燒野 | 春 <small>土</small> | 暖 |
| 春雨 | 春夜 <small>土</small> | あ <small>土</small> | 横塔 | |
| 〇三月 | 彌生 | 雛 | 草 <small>土</small> | 寒食 |
| 雑合 | 曲水 | 汐 <small>土</small> | 安良系 | 序 <small>土</small> |

| | | | | | | | | |
|-----|-----|----|---|---|----|-----|----|----|
| 暮春 | 辛夷 | 遲梅 | 梅 | 蛩 | 陽炎 | 春の海 | 遲日 | 峯入 |
| 惜春 | 木蓮花 | 梅 | 梅 | 蜂 | 炎 | 海 | 日 | 入 |
| 三月盡 | 藤 | 梅 | 梅 | 蜂 | 炎 | 海 | 日 | 入 |
| | 李 | 梅 | 梅 | 蜂 | 炎 | 海 | 日 | 入 |
| | 苗代 | 梅 | 梅 | 蜂 | 炎 | 海 | 日 | 入 |
| | 虎杖 | 梅 | 梅 | 蜂 | 炎 | 海 | 日 | 入 |
| | 茶摘 | 梅 | 梅 | 蜂 | 炎 | 海 | 日 | 入 |
| | 行春 | 梅 | 梅 | 蜂 | 炎 | 海 | 日 | 入 |

新題林叢句集春之部月浪終

春目ノ二

新題林叢句集

周芳 史公 編
浪華 曾大 校

春

立春

まらたつやそ後の洞のひらりより
 まらたつや氷柱の芽の滴より
 清のまふも花いとぬふきり

中院殿下
 希因
 涼帝

正月

正月や車きくら次牛のしり

範永

静さや木の根をよ初日乳

南部

素卿

日の初

面を中々も非も取や日の初

安静

初鷄

初鷄や空より日影の来り思

菊輔

うし鷄や隣よ等しく思ひ

奥水澤

曾臺

初鳥

ほのこしと鳥のまや空の春

伊勢

野坡

うしいこしと隣やけりまあれよう

菊羽

初夢

うしこまやねのりて舞なる日け

安室

うしこまやえんりめだしの初

重厚

初曆

うし初の新由しよまらる曆

柳居

初曆とるやうし初の新由

南部

鶏路

若あ

うし初やふとつてわて為井の

乙由

うしあよふとつての隣は曆とるや

嵐雪

歳日

うしあよふとつての隣は曆とるや

美濃

白兔

弁代えらるる筆の息乃佛さくら

伊達

竹冠

三朝

この朝さらけたるまをいんちやとん

嵐雪

よととるや二月後てさらけ朝

奥水沢

都龍

今朝の春

けふるや枝よがりけり朝のま

蓮谷

揚り春のまをいんち朝のま

蓼太

た刀佩て掃て居人や朝のま

涼菟

正重けりけり朝のまをいんち朝のま

休甫

そ朝のまをいんち朝のまをいんち朝のま

蓼太

とみ菴をさふ向なり朝のま

都雀

佐とせとせ居たり朝のま

夫石

我おとととわたり朝のま

貞室

今日の春

とみ菴をさふ向なり朝のま

型一

志のま

おたつる人しとまをいんち朝のま

雪叩

志のまをいんち朝のまをいんち朝のま

鉤雪

後とて解けり朝のまをいんち朝のま

似舩

志のまをいんち朝のまをいんち朝のま

文隣

らるるあやうきあまのついでに

可樂

神の春

年よらぬあまの降んおれま
挽屋よりあまをうらはけおれま

幽山
沾洲

初春

あまを先河よ梅羹自しつな
あまをやうらひよこもほれん
あまを中陰羹より足袋白文

芭蕉
曉臺
竹里

君の春

價よしのむらねく

神叔

明の春

あつめて天下のまやたつ今
あつめて天下のまやたつ今
あつめて天下のまやたつ今
あつめて天下のまやたつ今
あつめて天下のまやたつ今

浦賀
玄札
度明

遊之

福寿草

あつめて天下のまやたつ今
あつめて天下のまやたつ今
あつめて天下のまやたつ今
あつめて天下のまやたつ今
あつめて天下のまやたつ今

野坡
南嶽
琴風
白扇

門松

一とくさへおの余きふは遠くたり

奥金成

南陽

一とくさへおの余きふは遠くたり

會津

巨石

門松のぼりへん出せり二日月

赤間関

羅風

大服

ちさくくると年となふね好むいふ事

和風

大服をふらうふ志はる茶世人が

可全

初霞

我意のね晴も晴もいふことと

西鶴

なまじるも芳野より近し初霞

奥水沢

牙亮

歯固

さのいもていもくもつためはくくもん

久勝

甚くさの冷くすのよせん焼豆腐

左大

屠蘇

屠蘇のこすハ四まの始れ後ひが

豊信

屠蘇のこすハ四まの始れ後ひが

立志

いふもさあや屠蘇の換堂初る人味

北荷今

そのらや屠蘇のいふりい人當る

東都

貞松

雑煮

正月と廿日よふりして雑煮をいふ

嵐雪

及硫の熟者大くふくしきる不
車庸

太箸

太箸や後よひ之し後山
曉臺

太箸の杉よ酔きり下たるま
奥宮野 玉笥

喰摘

ほつ〜を喰は〜のまほり
嵐雪

喰は〜や本雪の匂ひの捨りれ
岱山水

蓬菜

〜や〜の蓬菜の屬年配り
岩翁

〜や〜や伊勢の〜の俊
芭蕉

と年玉

と年玉ふ梅折小野の翁の那
言水

と年玉の〜や甥ふる月よを
曳尾

若餅

〜を〜を搦や教入の教らる
不知作者

〜の〜を教り〜の〜に
元辰

寶舟

須くぬる〜ぬ〜の〜や宝舟
嵐雪

〜の〜の〜の〜の宝舟
梅居

寶引

室川又妹う小隊をかびしり
伊達 見車

室川の橋り 乳石の音 疾
伊勢 長矛

掛鯛

かき鯛り 瓶一對の家久し
羽黒山 東流

うけ鯛の尾よ吹ぬまの風
筑波 龍白

年男

和あま坪の君酔りしり年男
武熊谷 雪江

とと衣の忌をたてし年男
羽黒山 里花

善そ初

まやと初禪はえてそそら
梅應

弓始

とと始 せとや 小石のかつ石の
奥金成 調瑠

扱うける素袍 鱗らり弓始
上毛沼田 素十

騎初

梅の音り 吹風 疾り 誇初
信善光寺 三千丈

木馬り 光山 巴引 係 ぬ
椽左

破魔弓

破魔弓の音 光り 焚り
杜厚

折梅り 光り 流ぬ 倭 俊
凡化

諷初

又も橋松ふさせりうさひそ先
若船の穂や楫ふりうさひそめ
田加下山
佐賀五日市
馬曹

書初

大津路の草のうさひそ先
こつゆうし持ひくらう葉うさひ
芭蕉
都雀

猿

猿あうー入らうて表や猿中らし
鞆靴のさそくむねやせ猿舞し
降るそらうたそし鞆の猿
嵐雪
午心

猿まや猿うし羽織をさそくて並
鞆をてんらうかー猿うし
可楽
蓼太

萬載

こち葉やたみよあうさそく
中んさのやあまうさそく
まんさの願もさそく
さう葉や飯もさそく
中んさの葉もさそく
去来
黒露
白雄
太祇
騏風

春駒

まじりやうんふ持るる小をけ者
太祇

まき約りふ尺ほてし男の郡

南曉

あつね

おつとま門徒坊主のあつねひ

沾圃

義孝より門をくこせよあつねひ

蓼太

糊杖

この杖や梨ふをのび人おとほ

儿董

この杖や思ひもよしぬつくも巻

梨明

七草

七草よととぬんうはこも首のね

嵐雪

七草よ毛たりにくあつねひ

不知者

七草より嵐うあつねひ

儿董

茶

茶の影中てあつねひ

曉臺

ぬを椽や茶のほあつねひ

嵐雪

雪の月西り茶のつゆあつねひ

如竹

疾起人茶とやあつねひ

闌更

あつねひあつねひあつねひ

蓮谷

茶

まはるあつねひあつねひ

嵐雪

あつねひあつねひあつねひ

見車

さしよるゝ葉せしむ物も烟うな
さし葉摘みおりのやうにさんたう
神島や ちんぼんまて摘み葉
大肉の節取つくくころまな
るゝ葉摘み合ぬぬを川
お繋子
楚水
去来
史郊
超波
曉臺

振袖の児を刺るおお繋子
ころかろのよるるさるやお繋子
鶯溝
芥水

手鞠
流士とては 簾よりよる手鞠
武松山
二川

抱えて描の影さぬお繋子
江蓠

初寅
ころの寅やまて山を記糸の如
お繋子
東馬

番卸
お風のえをまろや 番れろし
人んをまろ入り入るる 番お呂し
乙調

十日恵は須
まろや 十日恵はとの無れを
如蘭

十日あつても蘇波を梅の雨後常陸延方五粒

店卸

清いしついで乃ちて免てたし店卸奥金成燕脂

おほるすくあつこの種を店卸一亞律

細曳

細束や去年れ八束穂より合せ 蓼太

細引や何そ有るそと風ひよの 而得

細をきや各つこかひし二土門 嵐流

細束やたの利し一人おのよ 宇月

た長

内記さうや何さふやう度さ十日 素属

た長きや大抱をさうさうもく 尚白

後降

後降し一程痛よけさる十日か 蘭更

後降しいてや忌おんこれの浪花二柳

子の日

この日しお初り人友をうな 芭蕉

ひとりも様もようさおからんお子句 去来

およめてあは人ひくこれ日か 也有

あつこのお脂さこれ子の日か 蘭更

小松引

つらつ川よよとのまふ小松系
子成孫を引せまふ小松引

宇月
儿董

睦月

むけささくふらみいほをねがふ時
孫ひまをたぐふ睦月やむつひそめ

貞徳
光九

半羽子

まねてや後つ妹とせし合ひ
やう羽よりおとる半の日まが

嵐月
亀翁

雪

雪の葉よとてわさの雪の落
雪かふらふ雪の古くし
雪かふのちまを踏むし
雪かふよふとて体人流
雪かふの目枝を後よるま
雪かふの室まを人よて高き
持本町雪西へ飛さす
雪の隣へおしてまき
雪かして雪下りぬ白の本
雪かふよふとて雪よる

素勇
五筑
荷舎
智月
蕪村
蓮谷
蕪村
儿董
曉臺

鶯や舟のり来て啼井一本
鶯とあとの中ねとされいな
鶯のうらみさうもかつらせん
なすしとら只鶯のこしけつるな
かた川や鶯の羽根流れり
鶯や本ほくさうりの歌うもく
まゝとらみの鶯もく山さ日月
鶯のふもくしらせし海あつる
何答し鶯のうらみぬるのうら
鶯の啼きしうらみてくまのうら

南部 芦涯
可都里
素郷
士朗
南陽
瓦全
白居易
東武 葛三
伊勢 為貞
肥前 文塘

潮ささや 鶯鶯のほく啼
鶯よ梅のうらみとくさうり
鶯よむくさうりさうり食が
鶯のうらみさうり梅身が
鶯のうらみさうりかきよさ梅松
鶯のうらみさうり梅のうらみ
鶯のうらみさうり梅のうらみ
我さす人よ鶯のうらみしり
梅のうらみさうり啼ぬ天王寺
低さす人よ鶯のうらみ下り

東都 宗譚
南陽
竹冠
李朝
曹前日田 静齊
大坂 奇淵
筑前博多 甲魯
尾加 鳥和
少如
蘇村

青橋 似鳩
上毛

白魚

其角 曉臺 東雲 枳風 大江尻 曉臺
大坂

蛤

儿董 蘭更

縣

蓼太 布曲

教入

蘭更 蕪村 花竹

野を

寂入のこけりて一途しや我の足
寂り乃ささかさかさの菊舞我
中見入を松乃口くくく初くく
寂り乃の意深くくをくくく

伊勢

他力 曉臺

梅

あ時をらぬぬ梅れ一きく水
梅の香ふ人の来ぬこそ梅はれ

樗良 排隣

藤とさし持後り見えると表梅
簾ひの古棠よ流て梅二端
翹梅溝ふくく中梅のくく水
おきい入る梅やとささしおの所
梅の香中梅を揺るたる菊人
人舌の月取りし似る梅りか
浦の梅ふ片はくくくく
梅の香や蒼とくくくく
まよくくくやかから人月の梅
雪りししあふ油のくくおのま

鐵船 蕪村 手乃和 可都重 關更 蓼太 曉臺 可都重 松蒼

ま〜梅〜人〜人のあゆふ

南部

北達

梅の月あつてまねるおの月

加賀

蘭更

笑〜よりを撰〜のやまのふ

安達

千代

梅〜雪のあゆや細くあけり

備後尾道

露調

ま〜の〜低〜しと梅れを校〜

奥水沢

若翁

お〜も〜ふ〜風をぬ〜梅の〜

牙亮

おの梅まほしく人をほ〜しむほ

薰里

ま〜の〜雪の〜融け〜早〜し〜ま〜の人

南曉

梅を〜〜輝引は〜し〜し〜

蕪村

梅の香に依えの町れや〜つげれ

蕪玉

舟の〜梅〜る〜中〜り〜る〜

白扇

あ〜を〜歌〜る〜谷の〜ま〜る〜し〜

長門下関

花蜜

ま〜〜〜戸〜よ〜筆〜ま〜〜〜梅おぬ

上毛

似鳩

ま〜〜梅や〜し〜〜ふ〜〜人〜ま〜

大坂

弁六

清山や梅ふ〜て人下〜

仙臺

鐵仙

旅人よ舟〜ま〜山梅〜〜

加賀

魚春

梅月お〜母〜〜〜

ま〜〜あ〜れ〜い〜く〜か〜し〜

武熊谷

芦涯

思〜〜〜友〜ほ〜て梅を〜る〜お〜

信善光寺

雪江

ま〜〜あ〜や〜れ〜阿〜門の〜月お

柳莊

さくさくあやうげきあやうげきのあひかり

伊達

寸雅

うらうらふかふか梅のころの春の光

江戸

魯竹

鬼角してえもも梅の旭

尾州

葛三

あめのふかきさかきさかきさかきさかき

安達

羅城

さくらんぼのころの梅の光

美智彦

冥々

山々の梅さかきさかきさかきさかき

律大

可楽

小豆羹えんせやかきさかきさかき

長醉

并水

梅さかきさかきさかきさかき

霞竜

上毛伊予久

日さく梅えんせやかきさかき

柳

おのひさきさかきさかきさかき

柳

おのひさきさかきさかきさかき

才磨

沸くはな雪うらさかきさかき

諷聲

五人杖おさきさかきさかき

野坡

流るる水さかきさかきさかき

岱水

まき柳やけりさかきさかき

鳥醉

畑中ふひさきさかきさかき

龍橋

飯喰てはらさかきさかき

百明

さくさくさかきさかきさかき

淡々

春のふらぬも抑ふ隠れきり
きりくたの月い柳のしうら
ま柳や浪のこくや思をこ
夕柳影の映えりうえり
まひりて旭夕日の帯う形
おの柳清女う朝さうちにう

尾張 臥央
白戸 李明
仙臺 乙道
菅涯 渭原

椿

あさるんあらほしそくうま
鴨のからうてさるはもたふ
山へ能羽おまとさるふ様う
猪よかぐもてさるふ様う那

芭蕉 正秀
素堂 蓮谷

確やほくろくさふら椿
教さや様のあるる窓
まををかこむ様もらうは様
さるをさるの業もおのさるは
る様るこくはの様うりり
赤松柳の影りさるふさうり
とくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくく

長門 桂士
江戸 馬肝
上毛 澤雉
水口 完来
上毛 蛭州
甲斐 書郊
轍左

若草

こらまのやし鼻押はらるぬ牛ねま
こらまのやしこらぬさくら桐の苗
こらまのやし雪さくしをぬるこ痛めま
こらまのやしけししを嵐もさる春

信州

大無 風撫 暁臺 文兆

下萌

下萌のや雀の末食おのり下
下萌のやいろくれ虫ささる

岐峇 雨江

北蕨の臺

北蕨の臺はらるまて人の眺こ
押てえれ山の乾もやふたの臺

嵐雪 野坡

芥

久も世のまかおれふうく北蕨の臺
北蕨の臺今さくら何よりは急さ
我こら蕨のふたふ根芥こら
芥ま芥踏よこしこらぬ雪の尻
こらこらひやし蕨もさる芥の臺
こらこらやれらさのこらぬ田芥が
獨程こ根芥摘るるらぬ蕨こら
芥摘の蝶ふりせくこらぬが
ふららの押ふてり根芥こらな

儿董 大江元 夫草 惟然 其角 舉白 祖竹 如籟 山店

うねりしこまよふぬ狂摘根芥が
まの白やふん成翳るや芥の重
らふ所就と珍はや芥れ二重生
海苔

ころりたるや海苔に纏るうつ貝
傷と来て海苔を火とて煮るの夕が
海苔やうのやふん成とてうつく
後志

後志の日記一海のまゝとあひひ
日よを陰月よとほひや海苔の積

まをさしはくも持てる人ほむれ産
とる例紙の糸をこふよふは信
ひまわり首のゆふとてし後志信
李明

霞
しらもてを陰下せり大井川
り人の養成紙紙ぬ雪あふれ
まらくくやふあふくを味ふる
はうくやふの平てりもあふる
能登島の口らく方やふとてあ
海へ流園を抱てをあふり
白雄

泰經
几董
李明
暁臺
冬文
沾蓬
岐峇
柳居
白雄

春のきき庵て拂ふ衣門の柳
まのきき菜摘の神事ささり
なたるて又山寺やまの雪
あつさるやつくさく落てととの道
つら雪のほて清ら木城の那

東風

東風吹やうきと揃きぬぬさ
のうけんふ東風吹いせのきな
は内路や東風吹きまの巫女
ぬや東風吹中成日の出ふ
東風きくしけわたての社傍

春

門口より風熱林ぞくまふの浦
ききや捨りくくえゆるまの色
あつやくやまきる雪青菜賣
記やとととふよ新鴨の秋
ち余るるま日る春のちゆ
まきりまの家のまきなり尾
た川やちくたをさるまの魚

春風

曉臺 方馬 涼帝 千代 且々 助冬 蕪村 左鐵 南曉 几童 素玉 雲羅 五明 曾大 祖風 蘭更

池鯉鮒

秋田

日光

能登

冬の息子ぬるをきしよの風
舞子の尾りま風由らく日影が
美風のるを引切るそふれ那
ま風のつらさを流るよ山ふろし
繪草紙より陰おく店やまは風
まの几帳よまゝる夜居 不那
らえの片種脱ていふのうせ
まの風鶴くくふ川系う那
ま風のおろりびしふれまらり
まのせのらまほせりうは儀

許六
尚白
嵐雪
百明
児童
不木
闍更
佛仙
曉臺
児童

まお中へ大名通るまのうせ
ま風や獨ほくく西乃系
まの流く扇なるまのまは風
まのせふらりしあまの痔はが
おまのこのはまらふ小麻は風
壬午の西や一島の穴まふのうせ
ま風や井切くく大井川
精飼等う小家なうひてまの風

可樂
南曉
菊羽
鷺白
民来
涼秀
木耳
魯臺
鼠彈

佐保姫

佐保姫やふらの面うなさん

伊勢 上 大坂 相馬 筑前 奥水沢

さ月姫や尋らりてらへ伊勢の
依保姫やさるの帯と鳥帽は奴

宇月
青蛾

和田の海ふささぬをほくが
陸深てらし舞し海をう愛

菊齡
笠凸

春草

系沼はとそけりはくまのま
る龜の脊乃海へく航りまほは
とらふのやふるま真さゆきか

古笠
蕪玉
上毛伊予
觀思

○衣更着之部

二月

神の梅乃やぬさるまは二月が
死ささるや大思梅乃梅のふ
ふのほく本らりてうしれ二月が
れささるや火焼の縁を梳りて
心月をさる麻てくりして二月が
如月やあるほくさるのま
古里ら雁の心ささる二月が

尚白
野水
支考
嵐雪
秋水
雨人
白圖
播州
尾羽

雪の息けさあえぬ二月のま 月居

二日夕

山えん少くも折るをあむや二日夕 草司

二日夕あえん今大事なり 儿董

初午

初午やあえくしきまけ夢 蓼太

初午や切ぬ無信やも朝信 柳居

初午やさふけぬ寺の山を交 左明

初午や負く折たるも虎かけ 馬十

初午や

以新能

お新まの寄て涼しき日山 楚崔

招能や新明を以付ふ 見車

温槃

負て来て母おろしう初人像 一髪

牛の角をさぬぬ衣温槃像 乙由

百抄をさぬぬ衣温槃像

尼のまろ尼よ牛くろ初人像 彫棠

おろしう初人像 鳥醉

山寺の温槃像 鷄山

親交しと暮るゝ温繁の田螺臺 曉臺
西行忌 鳥醉

西行忌の目をかきり 温繁會の洞序や西行忌 戸 扇六

彼岸

粒をこころやいれし親れ彼岸 来山
極楽をねんえて帰るいんま 銀波
似珠り昔の弱冷としかんま 儿董
ふんまくの親まきん試ふく彼岸が 浮舟
まこと定まらば彼岸の月乃せんが 伊達 龔兄

細お

くくくもくくくく細お男の那 去来
親は海へ余まの田をお夕白ま 其角
細うらや思ふこと并ぬ肩の冬 雪吟
うらやう 敵親もしとてけうあ 杜若
細うらや我かおもええて暮るゝ家 蕪村
法師とて細おの月おが 樂田 虎風
唐の系や細うらにをまゝるなり 奥の國 今字
外まゝら 嵐雪
都のく暮るゝ人朝まゝるゝ

まきならやしもも受て折てり
松舟
葎たらや小鳥脛の低うなり
双飛
木の葉

まきまき西施合敷木うねむの本のあか
官父
ふとんまきの本の目まき花のらまき
未跡
朝霧の求食らほまき常平傳木の葉女
茂木

種卸
物まきやまき山田まきまき
可全
種はまきと濁しあまみり
糸石
種まきとみまきや鱈け
尚白

種草
目まきまきまき下まき種卸
鳥酔

種草やまきのらまきまき
芭蕉
まきまき種草まき下総餉柳
一馬

種草
まきまきまきまき和加まき柳居
如水
まきまきまきまき和加まき柳居
如水

種草
まきまきまきまき伊勢まき神風館
神風館
まきまきまきまき伊勢まき神風館
神風館

おはせぬ二月の梅とあつふりり ト 牛心
あま梅より白箸削ふ小あつる ト 見車

芦せ才

芦のせ才より雁の古原なつじや 奥水 曉臺
芦のせ才の解ち乃とこふ摘まき 奥水 祖庸

芦角

川流や泡を休むる芦の角 伊勢 猿雖
しあふきやうとさうりり 伊勢 據三

連翹

きん翹のともるこの目成さる 伊勢 胡及

獨活

連とやりの姿やさの細むり 伊勢 柏梁

山里のらもなつり 伊勢 其角
むつくりともたきし 伊勢 闌鴉

日の影をと梅の堀出の 伊勢 一桐
あまを手に堀ふところ 伊勢 来山

か華

せいしあまを癒り 伊勢 嵐雪

ちるのちあま 伊勢 塩車
川あやふ然の 伊勢 冬文

おん草しきくははの目なごころか

裸虫

草

むしし男位さうり草家さるれ草

闌更

船落して雀さふむとさるれ那

曉臺

そとさうり日のことを烟のさるれ那

舟泉

堤より轉ひ舟舟ささるれさる

馬寛

似降の島ささるれさるれさる

涼菟

暮一朝草さるれさるれさる

雨月

登人の外さるれさるれさる

聴雨

燐糸の草さるれ特目さるれ那

蒼山

鼓草

鼓叶のほくささるれさるれ

銚子

さるれ泥りたんやのさるれさる

宣橋

菜の巻

菜の糸や捲女さるれの飯成

闌更

菜の糸や井子のさるれさるれ

鳥醉

菜の糸の世界さるれさるれ

淡々

菜の糸や暖帳を限のひさし山

竿秋

菜の糸は傷の糸さるれさるれ

蕪村

菜の糸は乃海さるれさるれ

鬼雀

着狭

葉のまやいつまでとまればおの雪 在處 素外
葉のまよふまよふは舞いぬ又搗ふ 蕪村
五百五

人のぬし泣きしつゝさるる心 ハ 梅廬
餅賣り店や暖簾みくみぶをま 甲達 志けり

^北刺 沸出で雉の妻をくし刺し 甲達 竹冠
痔そりよるのふりむく刺し 甲達 麻三

接本 へと記すのまぶる葉をくし接本 甲達 嵐雪
うせ垣を跨ぎさけり 甲達 起石
植木屋の急舟をくし接本 甲達 曾水

排 有明やおさうりふさゆるも 甲達 北枝
藪うさや馬の顔く 甲達 孤堂
うらそええよけく 甲達 心流
火を燃て家よ 甲達 嵐彈
梅咲やしかれ 甲達 吞真
鯛を切純を 甲達 児童
梅のま 甲達 蘭更

四ふ本のゆくふ松吹ふさう
伊勢 長茅
舟りくふ松り松花夕日さ
子得

彼岸搦
新隆り彼岸搦乃あまさうり
奥金成 調雅
まのらふれ彼岸さうさ初うて
南都 李由

幼搦
らあはのうさまるじや初さう
千那

らうさあたりふさや初はさう
乙洲
初さうおのもたら初うてさぬ
三松 大羅

あまらんしあまもひさせ初さう
儿董
あまらんしあまの人のあさう
羅人

舟道して帰合さうさう搦
淡路 晴々堂
雨風の中はあまさうさう
青岐

羽まらららとの舟ふはさう初搦
上州沼田 素十
舟さうさう竿初まらら初さう
上毛 似鳩

系搦
うささうさうさうさうさう
青大

らりりの峰よさう初ふさう搦
儿董
山搦
名のはうぬさうさうさう
湖春

いさおて人かえせん山さくら
いんくれさきし日まのやう
多思ふとこも難き物さくら山
山さくらさくら山さくら
入おの落よと瘦るさくら山
さくらさくらさくら山
はくせさくら山
家だのやうさくら山
得道のいんくれさくら山
噴くもさくら山

一重山さくら

一鐵
来山
心成
仙化
智月
蓮谷
無倫
蘭更
都雀
蕪村

智身つ体の一を横さくら山
ふもさくら山

晩山

麦青し物漸糸のやまさくら山
氣合よさくら山
青まのむて珊瑚寺さくら山
さくら山のさくら山

吾東
仙化
九瀬
蕪庄

五加木
道さくら山

扇雪

ほろこたぐり 狗張結ふみかまる
みか本恒都の字をそのもにり

峡水
儿董

巖

狗脊のまろり 猿ふりてひか
はゆりてや 燐せり 子れ巖
小ねゆ 巖を度り 年より

嵐雪
由之
儿董

猫

猫息しふまてる ぼとや 猫の息
息せとら 猫のさくら 猫の息
家新中月ふるを 啼 猫の息
さつれふりてたえしむす 猫の息
りるともら 根無ふ明て 猫の息
とてと白くさるふ 猫の息
琴の流り 是はさるれは 猫の息
さつひさし ぼして止ぬ 猫の息
猫の息嵐もやうて 猫の息

去来
秋色
探丸
史邦
鳥醉
真佐
儿董

はらうと おまの ぼ目 猫の息
くまの ぼ目 猫の息
ららう 猫と 答ふ 猫の息
流るる ぼ目の 中や 猫の息

伊達
見車
度明
廿月
蓼太
琴風
史邦
鳥醉
真佐
儿董

虫揚よらちりけいさなれゆのま
揚の急婦そふとけふてなき
まの揚啼く揚を後るなり
揚の急いぬおもなく表れさり

陸奥

伊予

蕨草

可楽

五明

樗堂

雑子

蛇喰さやのうしにけしけり
漸きもひくもて終のほろけ
らけくた終捨終の昨う都
終る苗平しこのふもりや平に終
けいとも農とつても終るよる

芭蕉

去来

其角

蘭更

漁牛

け事のいひそくまよ終るけり
おりふと只一もつふ終るの啼
暖のこくくはまをまきしの手
人の親の寝所の終る付あたり
けの根り終啼るの終るけり
けをけのほか終る終るけり
つう終るや終の叫ひのやせま
條々の山終るさり終るのま
かくるも終るま平ら風の終る
終啼の終の尾よけまるるる

涼菟

桐雨

蓑太

曉臺

几董

百池

可美

画鶴

二柳

春卿

久里米

奥棚倉

大坂

周防岐波

雲雀

ふのく先や地の人えて燕の鳴後る

野島

尺樹

ふゆやしきりもほこりて

芭蕉

田楽やし律向口へ舞ふ

許六

伎師やししむりのきり

史邦

舟のまじや日にとまに

關更

猪垣の崩をほりり

曉臺

為草のまきかひむり

蓼太

山分けのお明を乃る

儿董

川舟やし雲雀啼る

闌更

止かてのふやし葉のま

伊勢

為貞

燕

あふりい今ゆえ人の

嵐雪

燕まをよもて門と

一龍

ほもつらやまはかり

舎羅

ほろくしと後やく門

怒誰

出女の化粧の中やし

木尊

夕飯の燐く遠入は

鳥醉

燕やしあ田の風よ

燕村

ほそくしやあひの醒るるの夢を以
ほそくしやあひの醒るるの夢を以
海平し歌えんしやあひの醒るるの夢を以
漢の法しやあひの醒るるの夢を以
夕歌やし海苔の麻糸の夢を以
ほそくしやあひの醒るるの夢を以

信房

児童

蓼太

曉臺

猿丸

百池

南陽

蝶

初蝶の二つまたなうてまうさう

あまのりやあひの醒るるの夢を以

貞佐

湖春

嵐雪

重五

衣吹

一概

蓮谷

午心

六合

玄兔

引弓ふしやあひの醒るるの夢を以

伊達

善西廣嶋

六合

玄兔

雲呂

つらや浪のしづ海直ぐはる様
みち路を只ぬる様の夕に飛
かゝるくの鳴矢ふ様の花をねぬ
釣鐘よりやまうして成る胡の
紙板のくくおひてしりぬ様の
ま風の巾よりあゝる様の

上島留

素十

我謙

可樂

蕪村

蘭更

南曉

初蛙

よくけりも雪れ中より鳴り蛙
くく蛙こゝろの音をかゝる

奥白石

麦羅

騏風

蛙

ゆきほいてまやりよる蛙の
附木底のよなをくまるとる蛙
よきなしやさての芥と自ら蛙
落をくく押してのこゝろの蛙
月よきて月よ鳴を蛙の那
鳴りくくまのちりくま蛙の那
夕影中し免波りくま蛙の那
を病むるよきまの達り鳴り蛙
夕月の蛙より身をこころかゝる
暖のま沸くくくむる蛙の那

宗鑑

其角

嵐雪

貞佐

玉蛾

柳居

芳重

山店

徒南

琴風

ついでさふ極はくくさふ蓮を弁
ふ門より臨みさるるふかきうか
月あられさるる勢たう啼くら
まきさふ身をたぢめて啼くさ
既と日中嘘をえれハ後 向
踏のちしくうくかきうら
糸のちしえくても羽田の嘘か
おさきのうと段て藤るおやの嘘
まあと先もあとの底なる嘘る
世やさるるし嘘何人と思ひらる

帰らんといふ嘘を嘘のふまらる
かきうあの下又眼をくく嘘か

田原

昔とてえて回く先てれた念か
ふたはくさる泡ふく吹の回くか
湖を響のららら又回くし
夕暮中さあらのぼきふ回く啼
田原をくく藤るさるをえてさ
捨し強も回くく月夕のね

蝉

仙化

宗瑞

夢太

曉臺

素卿

雪下

二柳

雪人

周泉

復夕

冷五

轍丸

青丈

四睡

朱拙

花縣

不求

蕪村

姫路 豊小倉

伊勢

伊勢

しらぬも 蜺 侍く 負く 那
蜺 人のちく 先の思 六はく

招風 不木

蜺

一升をかたけ 陸より 規の 那
かきよる 石よる 山む 糸規より
糸ぬも ことの 風ひを 吹くこと
かきよる 規洗ひぬ きの 岩
規 毎日と せらく とも 規の あり
本なる 殿の 石を とも 規より 規とを

其角 涼児 梅主 竹冠 南曉 水石
年達 考根

若鮎

を 石を 拾え とも 小鮎 くる
若 ちの 石を 都の あり 規より 規
かきよる 規より とも 規より 規より 小鮎 あり
あつる 乃 不る とも 規より 規より 小鮎 あり
うく あり

柳居 唐水 圃水 芦涯

あつる 乃 不る とも 規より 規より 小鮎 あり
袋士の うち 規より 規より 規より 規より 規より

普船 荊口

春鷹

逸 あり とも 規より 規より 規より 規より 規より
多 あり とも 規より 規より 規より 規より 規より

重良 怒風

駒鳥

新らちや人見えそ免て弱き鳴
弱き目のさやしくととととが
於そいふくさのやうにけり弱き
弱きのをうらひひさうり思れ上

武易形戒

捷花

傘下

卯七

園女

鶯

山の舟の弱瓶つとくや響き
うそのさう聞初てより山行哉

鳥収

式之

鳥の巢

鳥の巢を歌てのやう時この形
鳥の巢の明神ささるる日救
夕山やさるり降る時 於るふ

陸奥

希因

白雄

長寸

麦藪

ふとこ入るやいふ草れまうはら
よとれまをこいはとよとる麦藪

貞宋

去草

蒼角

何の白乃風よさるして麻の角
ふとれまいしちやいふおと麻の角
らましくし島の中や流し角

猿雌

澤雉

玉馬

角を以てやとくも又由る男麻野
角を以て麻よけふ麻の又由る
角を以て角踏つけし女
春雁

旅よりけしれも又えにたるの鳥
ふ浪より歩るをさうりまの鳥

泊り揃
餅刀を齒る余りぬらふし揃
ふのくも啼き待りし揃

牙還
河を以て舟樂所のおき火焼
背戸中を河を以て田螺壳

猶お
掻おや南よりふいしや戸
猶おの心定りぬ浪かつと
猶おや只花くも風の心
舟の猶おはるる月おとす雨

猶月
中川やあらしふらんも猶月
るおのきふ花よおなる月

蕉笠

為亮

蘭更

梅果

湖桂

花縣

緩駕

泥足

夫草

児童

龜文

鳥石

白雄

嵐雪

露川

加賀
伊達安達野

南都

味呀豆の煮る旬しやしおろ月
大京や蟻も出て舞ねほろ月
兼ち深窓ひくちろおねほ月
乙日^ケ月よきくささそそも
湖の呆りふさくおほろ月
海苔揃ふちのそそや
嶽月空の流の山辺をり
梅の宮一燈消ておろつさ
新らしきふささそそも
糸帯^舟の糸より嶽月

史邦
丈草
乙由
前川
深魚
燕村
曉臺
五角
南曉
風柱

ふ流の籠りくおや嶽月
肩癢の痒くならおや嶽月
伽羅臭と人のかり森や嶽月
おろの度るさそせりおほ月
燈りそむくそそも似ろ嶽月
雪解
雪とそそや都^下下^路の
とくくそそふささそそ雪の水
凍解
凍解と鯰泡ふくはささる

音淵
二柳
燕村
霞電
芦涯
沾徳
其角
素竹

凍解や小笛をばらめらる
ほろりく氷とるぬきき

大坂

鬼文
自樂

風巾

糸はくく人さむや几巾
市巾やふふさひいひ
切几巾の流る小川
几巾よる風よらふや
几巾さるんたぐ暮てり
几巾さるんたぐ暮てり
切てやふんたぐれや風巾

嵐雪
涼菟
如籟
白良
鳥酔
白雄
曉臺

焼野

うかしこ親きのたぐ焼野
さくらんたぐを求食よき鳥
獲野るまき

周防

湛熊
享石
羽仙

春の野

まきの野やもさかほの裾よけ
まきの野や本尻さ道のま合せ
まきの野やんたぐ人のま合せ
本尻はまき様してえんたぐぬ

来山
沽徳
一有齊
山居

暖

けしきをりしむる中し猿のほつて
けしきかきし只は流のなるをるる

諷竹
秋風

春雨

まらるるやあつと入りし松葉
まらるる雨やうらりし鮎の子と運ぶ
いりりせん御礼をいはくまらるる
まらるるやし桐のきかはくまらるる
高城塚くまらるるやまらるるのあめ
まらるるや甘藷のくまらるるを運ぶ
まらるるや鼻うらりしを運ぶ

杉風
友五
荷翠
花好
鳥酔
几董

狐火もまらるるまらるるあつた那
まらるるの麻酔りくまらるる小舟
能衣の人まらるる降り春のる
あめまらるるの心を降しつた
まらるるりし石赤りし猿乃石
まらるる合て鳥帽まらるるを運ぶ
まらるるの雨引提し男の那
まらるるの中やし都の山の形
貝売のうらりてふしまらるる
井はまらるる雨

蓼太
双鳥
可翠
左龍
温水
溜川
市泉
士朗
西雅
律大

本庄

奥柳倉

豊小倉

伊勢

まのこにおもさるるのかさささ
まのこやうらまゝなる廟のま
まのこにおもさるるをほらしてほら

斗入
五芳
應美

春夜

まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら

乙洲
曾良
児童
杜影
百池

伊勢

まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら
まのこおもさるるをほらしてほら

應美
夫左
麦晴
五筑
里賤
智月

積塔

積塔や柳の衣り風ささ
積塔の果るるやささ川鳥

芦涯
芥水

ふとく

○彌生之部

弥生

非風や弥生をぬりし門の非

嵐雪

登塚より菜の花のさくらをば弥生非

百明

兔角して卯のまを暮むは生非

山川

籬

わらわさの非をわらわをぬの籬

其角

后女の籬うしはくそをぬれたる

嵐雪

埴竈を搦てうはを籬の那ノ

希因

籬のうらふやううもて晴と伝ふ

曉臺

み傍をく朝を籬のうたうな

此得

いんげんややよからぬ籬の

可都

面鏡のかさうて籬の小町こな

可都

草籬

草のまて深ぬらん草の籬

嵐雪

籬のまをけくやしはまのむち街

梅王

寒く食

まを食ふし物をより火を焚く物る

攀白

かん食ふしを白よりく佛たら

立吟

きく合あししくくああららるる

葉風

鶺鴒合

鶺鴒の余をより 洋むや鶺鴒合
抱くもそ 踏凡しくり流 袂の那
さしそくそそ 節 簾るをきとり合

其角
貞佐
芦涯

曲あ

曲あやしきりり くら廻入りく
流りしを 出さやし 毫の甲
をのまこれをしる 胡蝶ま

希因
和三
乍流

沙平

登り帆の 渡 崎も なる 沙平が
まき平 渡人の 歩きの 悲なるに
さふちてり 足袋 杖 持る 沙平が
下る 沙平 なる なる なる なる なる
鶴一羽 をとく なる なる 沙平 渡

去来
白雄
宗瑞
蓼太
五角

安良系

かきくひの なる なる なる なる なる
年々 やあ 良家の 階小 神
やきくひの 明日 小なる 二日 碎

曉臺
玉笥
祇来

後身掛

下総市川

はあかの肩ぬくさやけ身ぬく
伽羅の香の仏臭きよけ身拭

駿久能

几董
文武

峯入

こひ入や影し先はさる探良口
峯つらふ踏てのなるやおの志

遠瀬松

土芳
可拾

出代

出つらや程んりさのさんし
出つらや程んり余就る若の丈
出つらやいささこのつゆさるふ斗
出つらやうり幸子新ふ成勝さる

嵐雪
亀翁
里花
浮風

出つらや世さうさかこれ飯の泡
出つらやさるうさ西のふ人切
出つらやとみえるふよ居るさる

白雄
曉臺
芦涯

長日

なうた白中しりあさ志久木の弱る音
永き日やしさの中さるれ大いさ
なうたや目し事志て破の浪
なうた日やいささの梨むいさ
なうた日やいささや瓦のつ人扶持
なうた出て永き日越ふさるさる

大坂
野加長利
彦根

野水
吹馬
馬光
風雪
花溪
嵐秋

長閑

も涼しやし 涼のそよのそよさうら
乃やうらやうら 海がしほは 海苔の味
もよおさや 田の中 焼く 餅ころも

荷今
木節
一有齊

春の日

柿の本のそよぞよの葉 搦まら日か
まの目や いらてなうい せも 西をさ
まふの日乃 急佛 由ろく せも け
まの目や 搦り 車の山 行り
まの目や せも ころころ 車

半花
見風
尚白
闌更
可樂

まふよ ぬ 千里のまの目 ころ 那

出羽

素風

まの目や 救まら せし 人 帰る

薰車

まの目 ころ ころ 人 帰る せも 目 け

一音

遅日

遅き日や 短の 下り 居る 橋の上
遅き日や 太 暮 せ せ 暮 速 暮

駿又館

蕪村

詩三

春夕

壬辰寺の 鐘 せ せ 暮 の 夕 ころ 那

下総市川

布曲

春の暮

山 暮 の 菊 い け ち せ 暮 の ころ 那

蕪村

花枝のやしき雲よりまきの暮
障子明て雲より寺のよふは暮 南部
素来 蕪村

春の月

後ろの上よりさくらまきの月
そのいらやも伊勢さくらまきの月
よきまきのいらやもさくらまきの月 尾張
紀の山ハきのけはなりまきの月
舞臺の門を文よりまきの月 江戸
柳ま舞のほなをさくらまきの月 仙臺
落まきのいらやれなりぬまきの月
南平 宗讚 白扇 方明 可都里 武陵 許六 武陵

雪を越てまきの月おとさくらまきの月
路よりまきの月まきの月の障子なり 周防上関
まきの月うらまてえれおはゆ 豊前大倉
まきの月を聖日のまき春は家なり 大坂
おとせりまきの月おは 江戸
春鴻 長齊 南明 律太 百樹

春のあ

まきのあまきふんぬる 郡
らにくしき舞うまきの月 舟泉
まきのあまきふんぬる 蕪村
うたを徹をさくらまきのあ 几董
鬼貫

破山や小ねう中城まろのあ

几董

まろのあつ草もなれと流せたり

長門

薰里

後あや平しまぶらうよりまろのあ

伊勢

汲江

野下アツて幾日よりあやぬまろのあ

可樂

草の根の白きもアツてまろのあ

其成

かた川やし寝のゆりまろのあ

可董

春の海

西とアツくあ日る入なちうりまろの海

百池

ちう紙のぬきもと流せたりまろの海

花縣

むらもまろにおまぬりまろの海

八董

まろの海浪うりかたふまろの

一音

まろの浪きせてまろの海に成

伊勢

羅外

春山

又ひとりまろの八重山人をまろの

關更

る白き月あつまろの山

相馬

蝦蛙

春の人

日まろくうに井寺下るまろの人

曉臺

雨ふや後囀りまろの人

伊勢早

無曲

た刀佩し後あやまろの人

信前上田

如毛

春のこゝろ

流るる水も春のこゝろ

關更

まきのこゝろ春の目も

上野田

其雲

糸花

つれづれと春の古橋

乱絲

つれづれのこゝろ

關更

陽炎

陽のこゝろぬれたるおのゝ

許六

うさろふやぼろく

土芳

陽の赤穂より上り

胡蝶

よみ砂のこゝろ

几董

陽のこゝろ酒のこゝろ

、

枯草の河をより

宇達

方静

陽のこゝろ木城のこゝろ

五牛

爐塞

炉塞やし床をぬる

蕪村

炉塞やうなをぬる

百池

別霜

うさろふやうなをぬる

調柳

紫ふやこのゆりのこゝろ

不木

帰雁

帰るるとて来たる雁よ海のとれ
友減て帰る甲をなや帰る
来たよりも来たてたさや帰る
帰るて田毎の月のくまおり
けりもや帰るを以て海乃上
帰るてへ暇まいり先ん待るま
帰るのくまやも魚や帰る雁
けり雁の海より生きて志まひり
さくらくとてけり山の月おる

去来 且藁 諸水 蕉村 曉臺 一峯 百池 素卿

雀よ
帰るて指をふくねも利
夢合せけりや紀のて伊弉諾
雀よ

其豊 雪江

とてんこの帰るを成教の那
雀よとてくま(藤)踏たはむ雀よ
人の親乃鳥退きりくま先の
雀のまくとくまのんたるもり
雀よとてくま(地)を飛く雀の
踏て木の雀よくま雀の
雀よを雀より居しきり人の親

貞佐 舟行 鬼貫 斗墨 吳代 應美 如毛

蛇

蛇の目の位をさうして早合点
仰向りしをさうしてかやくや
草さうしてをさく押えて麻さうり

支考
土芳
路通

蜂

蜂さうしてお本舞の舞や虫の舞
巣いしを相合蜂のやうりか
巣さうり蜂の巣にさう二王か
巣をさうして蜂さうしてさうり

昌房
梅王
松芳
棟花

蚕

こつこつ文箱より入し蚕の糸
糸をくれぬ蚕の空をけしも響
さうして糸し糸さうして糸の糸
糸の目そ蚕さうして糸く月しら
糸さうして糸の糸さうして糸の糸
糸さうして糸の糸さうして糸の糸
糸さうして糸の糸さうして糸の糸

志仙
貞佐
波圭
江山
曉臺
南州

初志

さうして花のさうしてさうして
糸さうして糸さうして糸さうして

倍善光寺
鹿嶋
如嵐
木公

花

花のをり落を上野うげすを
落をうりちるこころの林を
そよ風軽くまて吹け風の泡
うらねをやしんらりなるまれ山
を傳へし都の春より目とん
禅寺をまより啼まてゆらんが
えおる人のまをふのまこり
雲よりさすや吉野えぬそま整
我業のまともまらぬまより
まよりう大後中ふまらじし

芭蕉
信徳
嵐雪
、
泰徳
重頼
立圃
貞室
智月
杉風

花のをり世を一人の入りま
まをて後まこふ風を
うら風のまらひし舞の歌
まのる朝より遠まら夕
まのるせんこもなく寝たり
石をま都よまのまを
まを新まよりけまらま
まをや伽藍ま樞おらり
山里より答まのまいるま
麻入るまおりませよまのま

卯七
晚翠
九兆
仙化
杉候
蕪村
梅墩
九兆
尚白
野水

をていりてをさの夕や一は上戸
あまやまをこれてさもぬ人の親
まのぬの程さるさのいりか
あまの美より起るははしこま
あまををほつるこけり風いこま
よしや降もさまらししをさ
あまもあまをいこまのいり先
祇や程やあまをさ接り
狭きり程おくさのあれが
かしおくもあまはあまの羽まを

百明
樗良
青蘿
定家卿
玄旨
利休
蕪村
児童

あまをさるさるやあまのほまの
いこや花を砕しあまの先
あまのあまをさのあまの暮
あまのあまやあまのあまの山
あまのあまをさるさるあまの山
あまのあまをさるさるあまの山
あまのあまをさるさるあまの山
あまのあまをさるさるあまの山
あまのあまをさるさるあまの山

女
葉
闌更
曉臺
蓼太
闌更
樗白
美知坊
諸九
二日坊

まもたかくたふもたたるお純
 らあふして縁うらとたるまふが
 赤うら赤る掃 磨れる白の巾
 かへも川上をくしふよ少く
 赤より赤ふらんれしや友がと
 累入の赤踏てし 素足く郡
 赤のせて赤えりし暮の扇まが
 我も馬を赤ふぬるくそつはしや
 結係るまふのちまき 孫やひうら
 赤おては寺のむら 退るぬらう

河内 百池
伊勢 几董
安藝 重厚
奥島 不染
伊達 六亀
其毛 可友
其毛 鬼子
其毛 瓢斗
其毛 来車

赤おたかくたふもたたるお純
 らあふして縁うらとたるまふが
 赤うら赤る掃 磨れる白の巾
 かへも川上をくしふよ少く
 赤より赤ふらんれしや友がと
 累入の赤踏てし 素足く郡
 赤のせて赤えりし暮の扇まが
 我も馬を赤ふぬるくそつはしや
 結係るまふのちまき 孫やひうら
 赤おては寺のむら 退るぬらう

上毛 嵐雪
其毛 其雲
其毛 里帆
其毛 瓢風
其毛 嵐月
其毛 草司
其毛 尺樹
其毛 夫左
其毛 梅曉
其毛 都雀

櫻

桜花は春をふ日をももてし
明もやし桜さへ先人山にほら
只の時もさかぬまのほら
一松をかゝるのらほら
さのふらふら根の桜さへふら
笑ふていつせもさの桜さへ
世の中もさ日えぬらふ桜さへ
桜さへさき寺えおれ都さへ
ほらさへて名るるさへ

其角
西鶴
柳居
蕪村
几董
蓼太
關更
不木

白紙りし味もほらさへ
比良の雪消て桜川の桜さへ
さささくらさきさへおれ
世の縁も伊勢のふらさへ
世のかりも只さへらさへ
山さの冷飯さへさへ
夕桜

見車
来之
蕉雨
紫陌
里山
蕪村
山川
聴雨

信嘉

上毛

長州

伊勢

人いささこ代さまきふらさこくはくし
筑前下村 素釣

夕嵐候ふさくらの乳をこりぬ
武の上尾 木奴

お嬢
可都里

おあつこくおのほくくをえせまろ

おはくく小人の乳をこりぬ
双鳥

おはるる廊はおのほくしこりぬ
北女 高圓

お嬢
珪琳

お嬢はくしこくお嬢もあか合を

ちくちく一舞のそえさるくさく

うちちちて我よあまの夕さく

おさくしちくちく小川のあくるま
尾 智月

おあささおのさくらのまこま

おあささおのさくらのまこま

おあささおのさくらのまこま
尾 無終

おあささおのさくらのまこま
薩 牙亮

おあささおのさくらのまこま
遅さく

おあささおのさくらのまこま
芦漕

おあささおのさくらのまこま
五節

おあささおのさくらのまこま
梨雪

おあささおのさくらのまこま
几童

かゝるころの巻持りしははらり
その月と輪の本のつらねは

大森

可都里
旧羽

躰躰

念はじしまぬくやうたう角樽
夕山のほほしよとる日おこる
後入の深山後や朝ほし
猿籠の夕くらを舟おほし

嵐雪

草土

貞佐

蓼太

山吹

山吹のやうな花の煙の匂ふ
おぼろし山吹花をよめい

芭蕉

野水

山吹を記してとらるる根井

通雪

山吹のやうな花の煙の匂ふ

几童

山吹のやうな花の煙の匂ふ

樹々

山吹のやうな花の煙の匂ふ

棗花

山吹のやうな花の煙の匂ふ

春鴻

梨の花

梨の花のやうな花の煙の匂ふ

關更

梨の花のやうな花の煙の匂ふ

曉堂

梨の花のやうな花の煙の匂ふ

和道

山鳩の啼てまきり梨の花

龜拂

菟箭菴植

周防

仙臺

海棠

ふんたるや少ふせし後の玉簫

海棠やおほきまてまきしやとて

海棠やしほつとてつる様ちん

幸夷

風なくて出ぬるよふのふふし

三月の風吹るやと幸夷が

帯こふかかふよふとるる

あよ

まふたふと茶のふふふふ

闌更

蓼太

曉臺

巴水

尚白

小倉 文舟

尚白

ささるの目しつとてふふ

苗代

なまじつふ光のちんや

苗代は行くやちんや

よしほつとて苗代

苗代やかきしと

通雪

嵐雪

才磨

貞佐

柳居

本丸

本丸のふふと

本丸のふふと

且郊

梅王

川の血を木尻より裂く人木橋紙

山川

茶摘

ほろくして人あはらるる茶室を我

蘭更

山畑やしのひもよふとと茶摘唄

仙花

ふゆふゆと先やし聖れ茶山とまの雨

曉臺

山畑の茶つと成つてふゆ目と

重五

その外て平くくたうぬ茶屋も

蓼太

せとりのくをむくに茶摘歌

柳居

次のちりり摘茶つとまふぬるが

此筋

木蓮歌

教はるふたりとんとかせうのれんけ

不知者

ちの蹴てふほとけりう木蓮歌

九和

藤

ふゆ藤やおのこやうの中を

芦涯

山藤の籠をふゆとてふれうな

郊七

友指やふゆとてふれうな

兒童

眠たくて藤てけ藤の山はつと

吉野

可翠

芽歌

おのり山ふゆとてや芽歌

吾仲

おのり山ふゆとてや芽歌

曉臺

体らひ中操をさきて芽針ぬく

可都里

虎杖

虎杖や一本縹染りの葉のみの

羅人

虎杖やまじりさきのちりぬれも

可人

けり春

けりま中し門をささぐり 毫もくも

湖春

まじり藤のよきまてて葉をばまじり

奥金成

巾羅

免つしとてふるまのさふまじり

几董

けりまのわの匂ひをふくらこり

之通

はくせのまじりおのまじり葉が

淡々

けりま中ふりこりたは色に抱れん

蕪村

けりまのいしはらふよまててまじり

五角

えりまをよまててまじり葉が

魚臺

けりまはまふかきまてまじり

青羅

暮春

まろんとまじりのねひや電障

几董

まじりのまじり潰れふりまじり葉が

林江

まじり今うんとまじりまじり葉が

三月盡

乃へ附よるがり叙して三月盡

羅投

仙臺

世をみたり 眺付り 三月

度淵

惜春

夕陽して 庭端人や 言れし心
まよふし 玉桂や ぬる人 心を啼

蕪村

夫左

悠謠新題林叟句集巻の叙

